

マコガレイ *Pseudopleuronectes yokohamae*



地方名：くろがしら（八戸、陸奥湾）、まがれい（陸奥湾、日本海）

生態

- ①寿命：10 年以上
- ②成熟：3 歳以上
- ③産卵期：陸奥湾では 12 月～翌年 1 月
太平洋では 1 月～3 月
日本海では 3 月～4 月
- ④産卵場：水深 10m～60m の砂泥域
- ⑤分布：北海道南部以南から大分県付近、朝鮮半島南部、東シナ海
- ⑥生態：通常は水深 100m より浅い砂泥域に生息。
食性は珪藻類、橈脚類、貝類、アミ類、ゴカイ類、甲殻類。

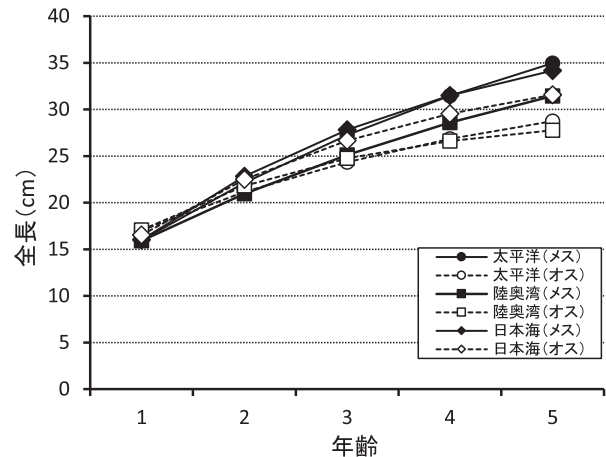


図 青森県におけるマコガレイの成長

出典：太平洋・陸奥湾：藤川（1998）H9 資源管理型漁業推進事業報告書、21-35。
日本海：Kooka et al.（2000）北海道大学水産学部研究彙報、51、121-126。

主な漁業

底建網、刺し網、底びき網で漁獲される。主漁期は太平洋と陸奥湾では 12 月～翌年 2 月、日本海では 1 月～4 月で 2 歳から漁獲される。

漁獲の動向と水準

マコガレイの漁獲量は、青森県全体では 2008 年の 557 トンをピークに減少が続き、2023 年には 148 トンで 1996 年以降、2 番目に少なかった。2023 年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、各海域共に低位であった。

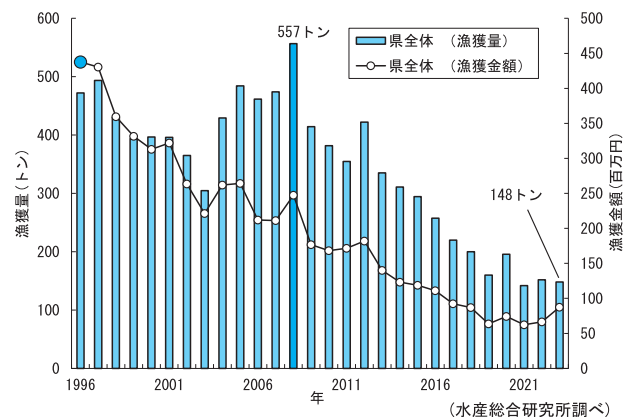


図 青森県におけるマコガレイの漁獲量及び漁獲金額の推移

太平洋 漁獲の動向 横ばい 漁獲の水準 低位	津軽海峡 漁獲の動向 横ばい 漁獲の水準 低位
陸奥湾 漁獲の動向 横ばい 漁獲の水準 低位	日本海 漁獲の動向 減少 漁獲の水準 低位

海域別漁獲量及び漁獲金額

海域別漁獲量は、太平洋では 2008 年の 324 トンをピークに減少し続け 2023 年は 50 トンと低調、津軽海峡では 1997 年の 90 トンから減少し続け 2023 年は 13 トンと 1996 年以降と過去最低、陸奥湾では 2007 年の 158 トンから減少傾向となり 2023 年は 79 トンと低調、日本海では 2013 年の 59 トンから減少し 2023 年は 6 トンで 1993 年以降、過去最低であった。

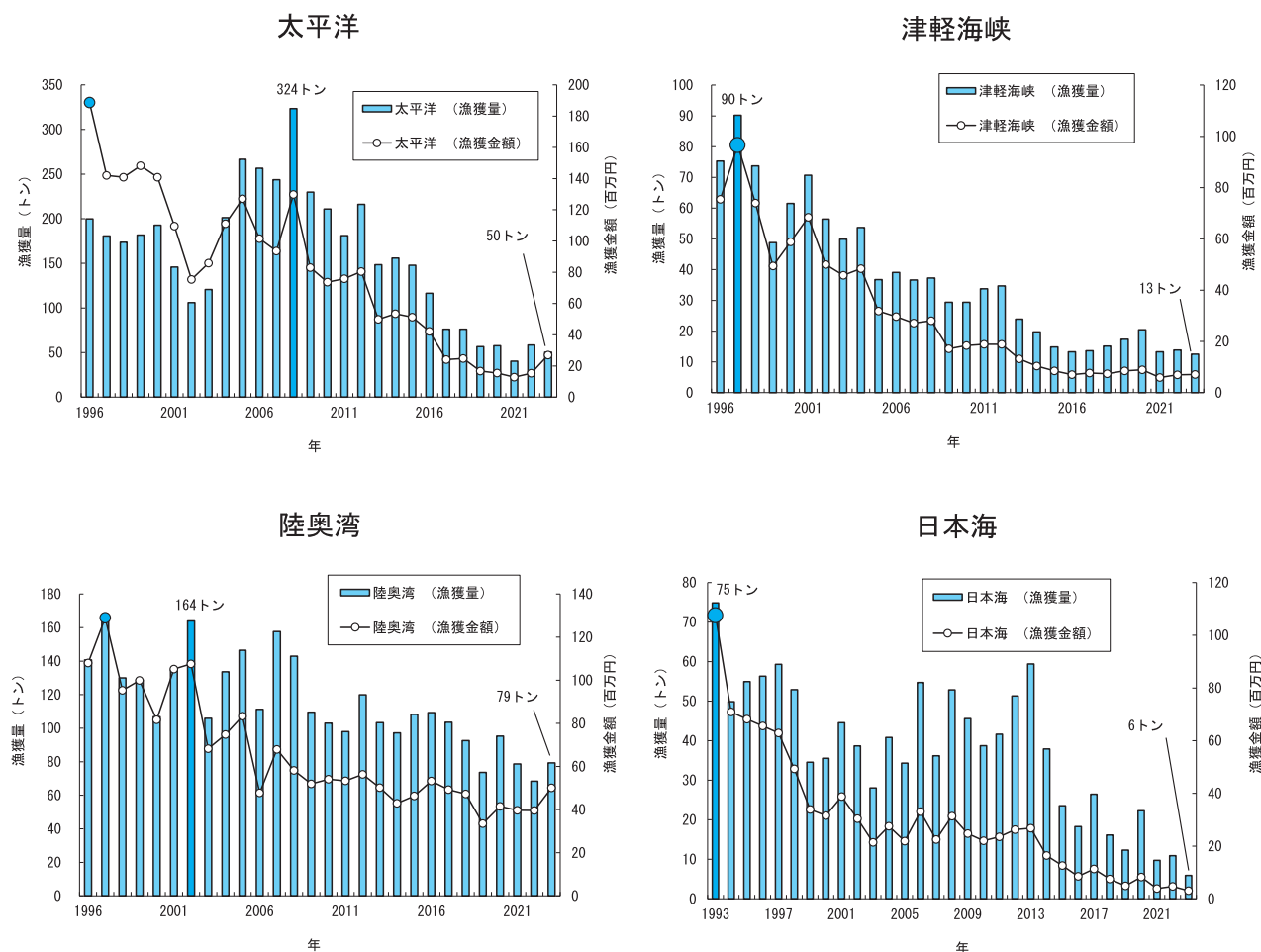


図 青森県におけるマコガレイの海域別漁獲量及び漁獲金額の推移（水産総合研究所調べ）

資源を上手に利用するために

○マコガレイ資源管理計画（2001 年 3 月）

・全長 20cm 未満個体の再放流、かたい刺し網の目合制限（3.5 寸以上）を定めている。

☆上記の取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・本県に分布するマコガレイは、産卵期が太平洋、津軽海峡、陸奥湾、日本海でそれぞれ異なり、遺伝的にも異なる（水産研究・教育機構水産資源研究所）。
- ・野辺地町漁業協同組合では 2011 年から、車力漁業協同組合では 2012 年から、水産総合研究所への委託事業としてマコガレイの種苗放流事業を継続して行っている。